

老朽化する橋の状況などを学ぶ見学会が14日、福井市内で開かれ、県内の工学部の学生らが早期に補修する大切さを学びました。

この見学会は国土交通省と県が初めて開いたもので、福井大や福井工大、福井高専の学生35人が参加しました。

福井市の足羽川に架かる板垣橋では、学生たちが検査用のハンマーで橋梁や橋脚を叩いて音で強度を確認し、ひび割れを早期に補修すれば橋の耐久年数が大幅に延びることなどを学びました。



建設から50年を経過し老朽化した橋は、県が管理する橋全体の18%（420カ所）あります。20年後には48%に増加することから学生たちの活躍に期待が高まっています。

 シェアする

 ツイートする

 LINEで送る

[< 新しい記事へ](#)

[前の記事へ >](#)